

木製バットのBFJマーク表示基準  
(2023年1月1日～)

BFJマークの表示は、一般財団法人全日本野球協会 アマチュア野球規則委員会が定める以下の基準をすべて満たしたバットに認められる。(BFJマークの使用には別途手続きが必要)

なお、木片や竹の接合バットはBFJマークの対象にはならない。

<基準>

<p>形状・ 大きさ</p>	<p>・公認野球規則 3.02 に従う (参考) 公認野球規則 3.02(a) 「バットはなめらかな円い棒であり、太さは最も太い部分の直径が 2.61 インチ (6.6 センチ) 以下、長さは 42 インチ (106.7 センチ) 以下であることが必要である。バットは 1 本の木材で作られるべきである。」 (参考) 公認野球規則 3.02(b) 「バットの先端をえぐるときには、深さ 1 1/4 インチ (3.2 センチ) 以内、直径 1 インチ以上 2 インチ (5.1 センチ) 以内で、しかもそのくぼみの断面は、碗状にカーブしていなければならない。なお、この際、直角にえぐったり、異物を付着させてはならない。」</p>
<p>色</p>	<p>① 下記の色が認められる。木目が見えること。 ・バットそのものの素材の色 (ナチュラル) ・ダークブラウン系 ・赤褐色系 ・淡黄色系 ・黒色 (墨黒) ※1 ② 許可された色同士の 2 色 (ツートンカラー) とすることができる。その場合はバットの握り部分端から 45.7 センチ以内を境界線とする。 ③ バットの握り部分端から 45.7 センチより先端がナチュラルカラーの場合に限り、その範囲内にフレームテンパー (焼加工) を施すことができるものとする。焼きの濃さは BFJ マークの表示が容易に見える程度までとする。 ④ 拙劣な塗装技術を用いていないものとする。(例えば、ボールに塗料が付着するなど) ※1 散孔材にて黒色を使用する場合は木目が見えないため、バットの握り部分において木目が見える色を使用すること。その場合はバットの握りの部分端から 45.7 ～44.2 センチを境界線とする。</p>
<p>特殊 加工</p>	<p>表面の仕上げ防湿等を目的とする塗布加工のみが認められるものとし、反発力に影響を及ぼす樹脂その他一切の硬化剤の木質内部への浸透による加工のないこと。また、以下を禁止とする。 ・圧縮加工 (牛骨など硬質でのしごきを含む) ・樹脂加工 (圧縮や含浸等) ※2 ・漂白加工 ・白色塗装 ・厚塗り加工 ※2 バットの握り部分端から 45.7 センチ以内を樹脂やグラスファイバー等で補強したバットについては使用を認める。ただし、木目が確認できること。</p>
<p>印刷</p>	<p>① バットの先端部分の表示方法は焼印 (焼印レーザーによる自然色) または黒色のプリントによるものとする。ただし、バット本体の着色が素材の色 (自然色) 以外の場合、白、シルバー、ゴールドでのプリント表示を認める。 ② 全ての色は同一色であること。ただし、レーザー照射とスクリーン印刷等による表示が混在する場合、レーザー照射部の表示色はレーザー照射の自然色もしくはスクリーン印刷と同一の色とする。</p>

先端部 マーク	バットの先端部には、材質・製造業者の識別表示をするものとし、チーム名・選手名・背番号・イニシャル・マーク類等は表示できない。これらの表示は、バットの長さに沿って、縦 5 センチ以下、横 9.5 センチ以下の範囲内におさめ、文字の大きさは、それぞれ縦 2 センチ以下、横 2 センチ以下でなければならない。
商標 マーク	握りに近い部分（握りの部分の端から 45.7 センチ～61.0 センチの範囲内）には、製造業者または製造委託者の名称を含む商標を表示するものとし、これらの表示は、バットの長さに沿って、縦 6.5 センチ以下、横 12.5 センチ以下の範囲内におさめなければならない。
リング	バット本体にリングを表示するときは、バットの握り部分（端から 45.7 センチ）に 1 リングに限り認められるものとし、その幅は 2.5 センチ以下とする。リングに文字図表等の表示をすることはできない。リングの色は黒、白、赤、ブルー、ネイビー、黄、オレンジ、シルバー、ゴールドのいずれかとする。
表示面	焼印またはプリントをする面については以下のとおりとし、先端部マークと商標マークは同一面に表示しなくてはならない。 環孔材（アオダモ、ホワイトアッシュなど）…ロゴ表示面は板目面 散孔材（メイプル、バーチなど）…ロゴ表示面は柾目面
公認 マーク	BFJ マーク（図 1）は、焼印あるいは商標と同一色のプリントによって表示される。BFJ マークの位置は、商標からバットの先端に向かって 1.5 センチから 2.5 センチ離れた箇所（図 2）に表示することができる。

（補足） グリップテープを巻く場合、バットの握りの部分端から 45.7 センチ以内とする。ただし、テープを厚く巻いた、いわゆる“こぶ”バットならびに凹凸タイプのテープを使用することはできない。

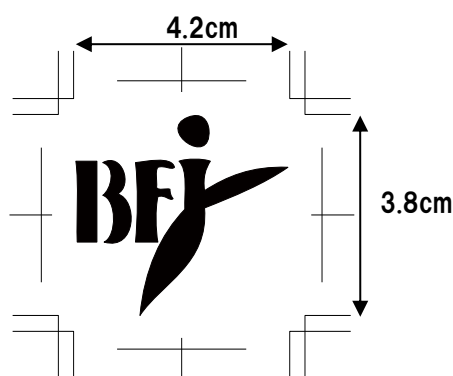


図 1

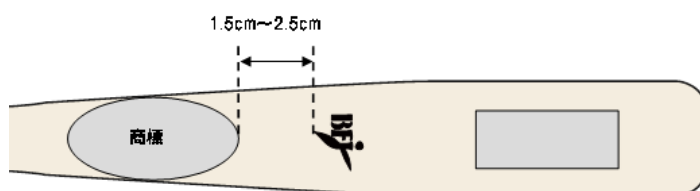


図 2 BFJ マーク印字位置